

令和7年
10月16日

第12回歯科医療提供体制等に関する検討会・第3回歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ（合同開催）

参考人
提出資料1

病院歯科

- 病院歯科の全体像
- 急性期（ケアミックス型）病院歯科の現状と課題
- 回復期／慢性期病院歯科の現状と課題

病院歯科の全体像



全国病院歯科医協会

会長 栗田 浩（信州大学医学部歯科口腔外科）

かかりつけの歯科診療所

- ライフコースを通じた口腔健康管理を行い、歯・口腔に関する相談に応じてくれる身近な存在
- ライフステージに応じた歯科疾患の予防・重症化予防、歯科治療、口腔機能管理
- 在宅歯科医療
- 障害児・者への歯科医療
- 医歯薬連携、介護関係者等の他職種との連携 等

専門的な機能を持つ歯科診療所

○ 専門性が高い歯科医療の提供機能

- ・ 専門性が高い外来歯科医療
(歯科保存、歯周病、補綴歯科、小児歯科、矯正歯科、口腔外科等)
- ・ 障害児・者等の歯科医療 (全身麻酔・静脈内鎮静等)
- ・ 専門性が高い在宅歯科医療 等

歯科大学病院・病院歯科等

○ 人材育成の拠点

○ 病院歯科の機能や専門性を活用した歯科医療の提供機能

○ 過疎地域を含め地域の歯科医療機関の後方支援機能

○ 大規模災害や新興感染症等のパンデミック発生時の対応

○ 入院患者の口腔管理【急性期】

- ・ 周術期や化学療法・放射線治療等の口腔衛生管理・口腔機能管理

○ 入院患者の口腔管理【回復期(包括期)・慢性期】

- ・ 口腔機能の回復
- ・ リハビリテーション・栄養との連携

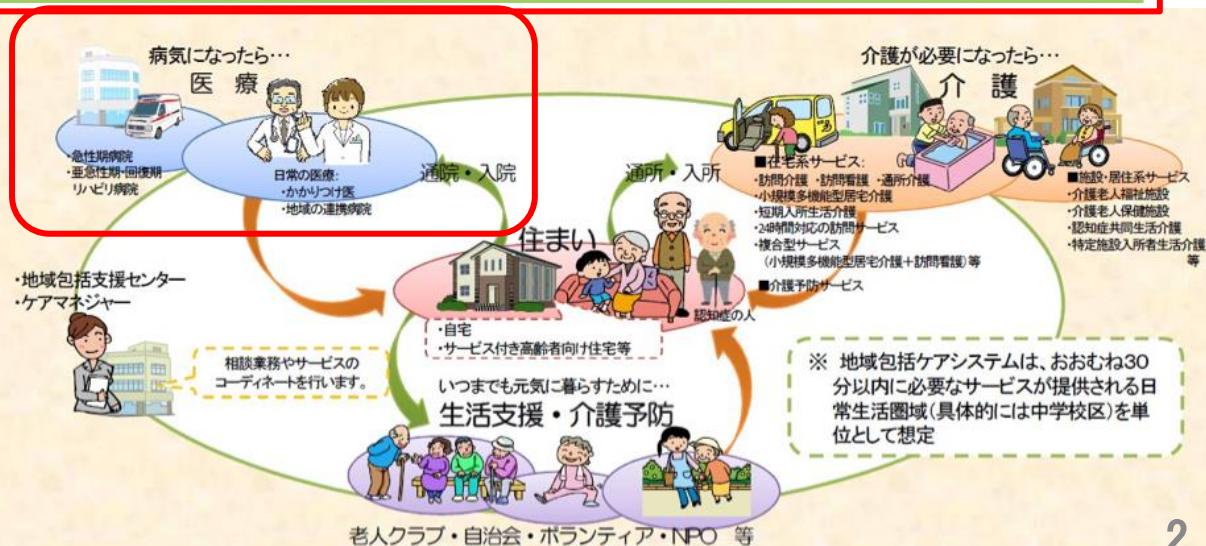
等

地域歯科医療提供体制の拠点的な役割

● かかりつけ歯科診療所

● 専門的な機能を持つ歯科診療所

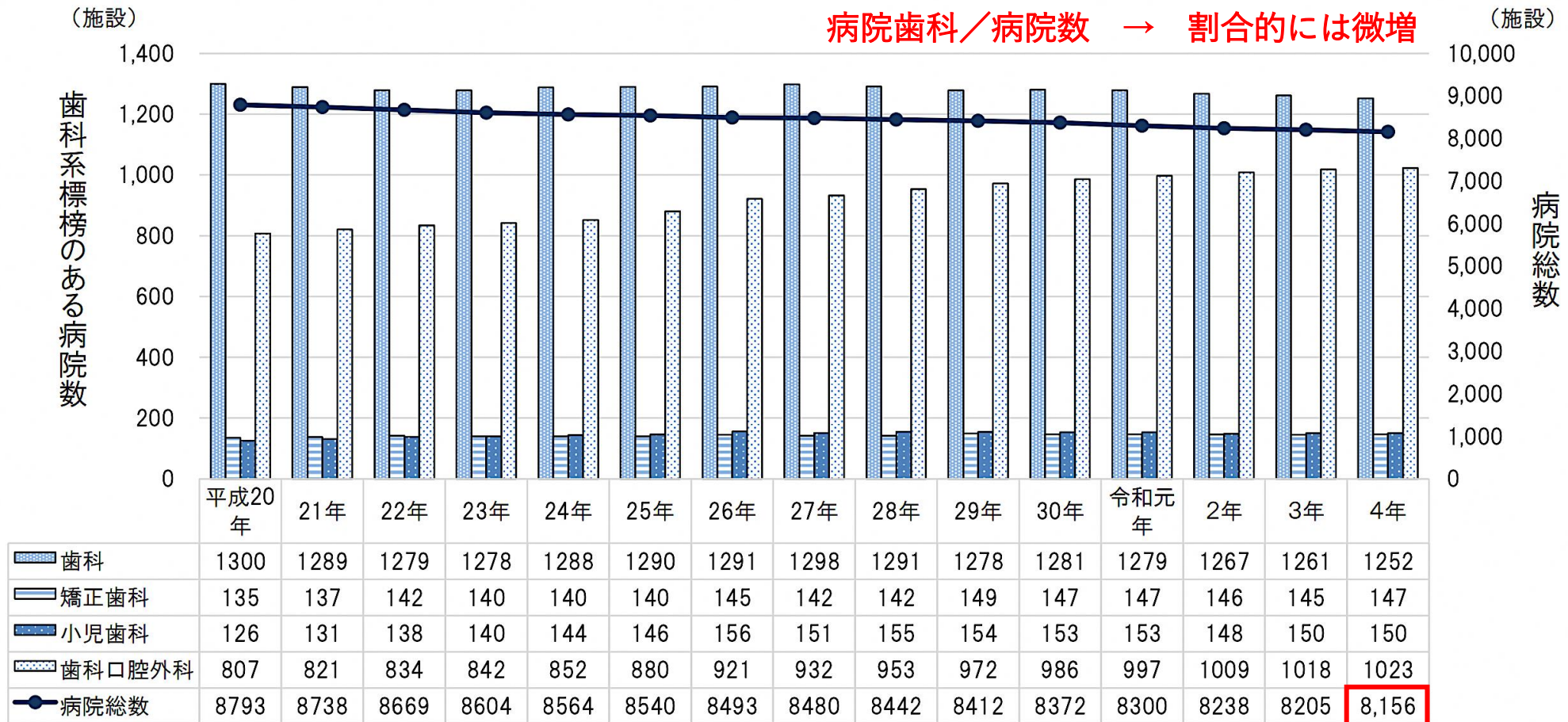
● 歯科大学病院・病院歯科等



歯科を標榜する病院数の年次推移

令和6年12月25日 第10回歯科医療提供体制等に関する検討会 資料1

- 歯科を標榜する病院数については、「歯科」を標榜する施設数は1,300施設前後で、「歯科口腔外科」を標榜する施設数は増加傾向である。



歯科系の診療科を標榜する病院数（令和4年10月1日時点）
（歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科のいずれかを標榜する病院数）

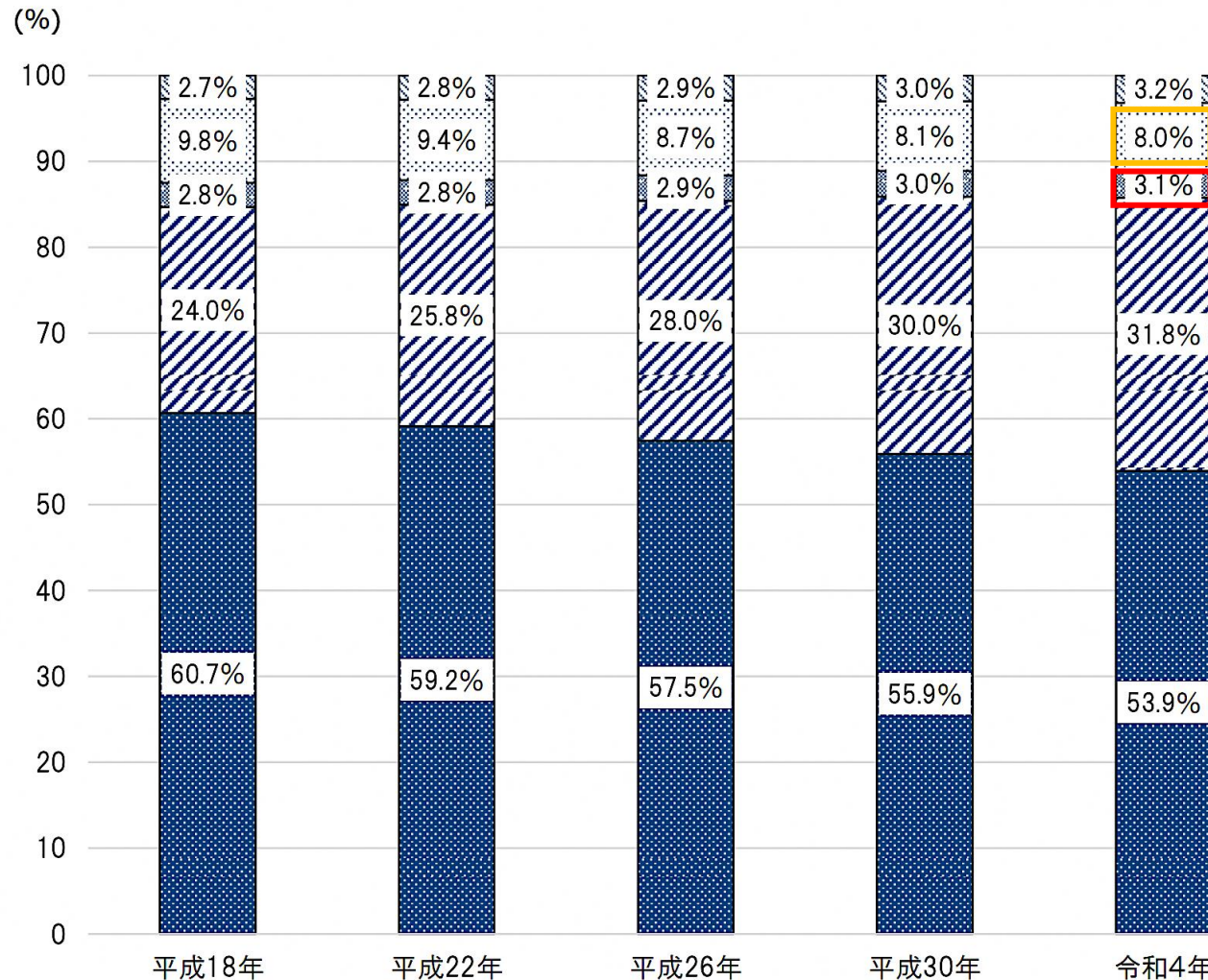
1,815施設

$1,815 / 8,156 = 22.3\%$

出典：医療施設調査（各年10月1日時点）

歯科系の診療科を標榜する病院数は厚生労働省「医療施設調査」について、医政局歯科保健課において特別集計

- 令和4年では、歯科医師の従事先は診療所の開設者が約54%、勤務者が約32%で、診療所で業務に従事する者が約9割弱を占めている。
- 平成18年からの推移では、診療所開設者の割合がやや減少しているが、診療所で従事する者と病院勤務者の割合はあまり変化していない。



病院に勤務する歯科医師数

令和4年歯科医師数 105,267人

$\times 8.0\% = 8,421$ 人

$\times 3.1\% = 3,263$ 人

合計 11,684人(病院勤務)

■ その他

■ 医育機関の勤務者

■ 病院の勤務者(医育機関の勤務者は除く)

■ 診療所の勤務者

■ 診療所の開設者

1病院あたりの歯科医師数

歯科系の診療科を標榜する病院 1,815病院

$11,684人 / 1,815施設 = 6.4人$

But 医育機関を除くと

$3,263人 / 1,815施設 = 1.8人$

(出典：医師・歯科医師・薬剤師統計)

1. 病院歯科の種類
2. 病院歯科は何をしているのか
3. 病院歯科の現状
4. 求められる機能分化

病院歯科の全体像 1, 病院歯科の種類

機能による分類

- ・ 一般病院
- ・ 特定機能病院(高度の医療の提供等) + 臨床研究中核病院
- ・ 地域医療支援病院(地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医の支援等)
- ・ 精神病院(精神病床のみを有する病院)(対象:精神病患者)
- ・ 結核病院(結核病床のみを有する病院)(対象:結核患者)

病棟・病床の機能による分類

- ・ 急性期病棟::急性期の治療が必要な患者を受け入れる病棟
- ・ 回復期病棟::急性期を経た後にリハビリテーションを行う病棟
- ・ 慢性期病棟::長期的な療養が必要な患者を受け入れる病棟
- ・ ケアミックス型病院::これらの機能が組み合わさった病院

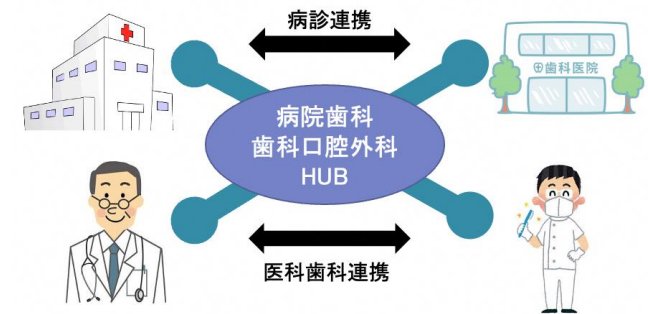
病院歯科の種類

- ・ 一般病院歯科:歯科併設の一般病院
- ・ 特定機能病院としての歯科:高度の医療を提供している歯科(口腔がん、こども病院など)
- ・ 特定機能病院に併設された歯科:口腔管理が主体
- ・ 医科医育機関の歯科(医学部歯科口腔外科)
- ・ 医科歯科併設医育機関の歯科(医学部と歯学部との共同の附属病院)
- ・ 歯科医育機関の歯科病院(歯学部に関連した病院で、医科の入院も行われている場合)
- ・ 歯科単独病院(医科の入院がほとんどない場合)

病院歯科の全体像 2, 病院歯科は何をしているのか

病院歯科の役割、行っていること

1. 口腔外科疾患への対応
(歯科口腔)救急患者への対応
2. 主に入院患者の口腔衛生管理、口腔機能管理、歯科疾患管理
3. 地域歯科医療の後方支援(入院、麻酔、全身管理、他科との併診)
 - a. いわゆる有病者、障がい者等の歯科医療
 - b. 訪問診療のバックアップ、地域歯科医療連携
 - c. ハード・ソフトの提供(検査、開放型病院)
4. 摂食嚥下医療(院内、院外)
5. 多職種連携、チーム医療への参加
(NST、褥瘡対策、呼吸ケアサポート、周術期管理、etc.)
6. 情報提供・研修機会の提供
7. 歯科医療スタッフの養成、医療スタッフへの歯科医療教育
8. 災害対応、事故対応(いわゆる針刺し、インシデント対応)



病院歯科の全体像 3, 病院歯科の現状

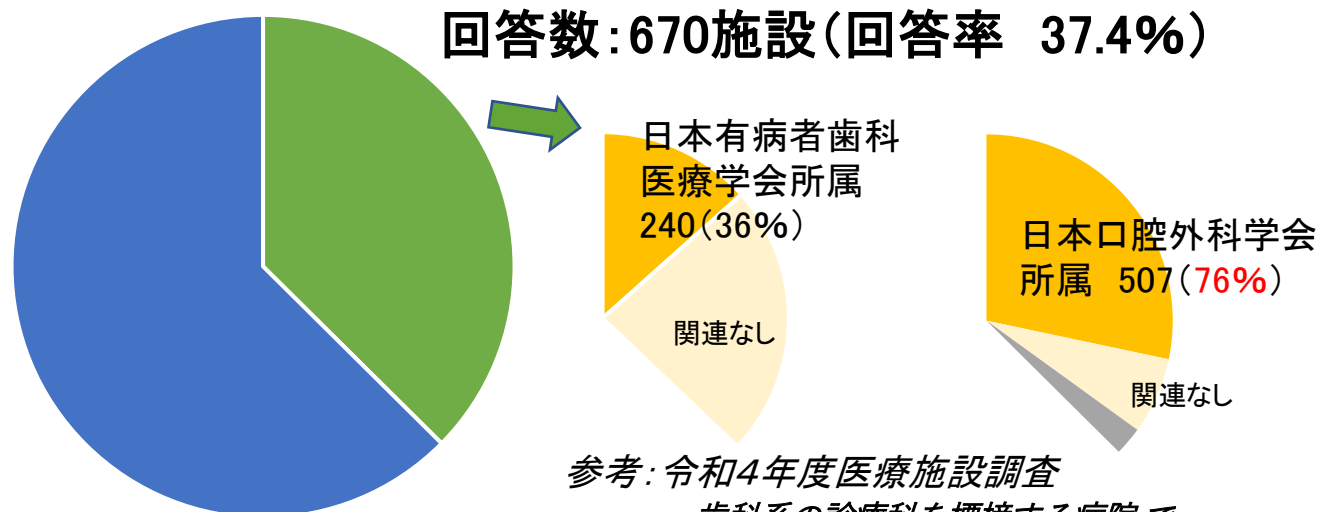
病院歯科の現状：アンケート調査（日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会）

目的：地域包括ケアシステム等に対応可能な歯科医療体制の構築にむけて、病院歯科の現状を調査する。

対象：各厚生局に公表されている保健医療機関の内、歯科を標榜している病院（1,790施設）

アンケート方法：グーグルフォームを用いた、記名式アンケート調査（61Q）

アンケート期間：令和4年6月



参考：令和4年度医療施設調査

歯科系の診療科を標榜する病院で

歯科口腔外科を標榜する病院の割合：56.4%（1,023/1,815）

病院歯科の全体像 3, 病院歯科の現状

診療内容

R4 病院歯科の現状: アンケート調査 (日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会)

N=670

診療内容	行っている	%
口腔外科治療	588	88%
いわゆる有病者の歯科治療	567	85%
障がい者(児)の歯科治療	410	61%
外来患者の一般歯科治療	311	46%
小児歯科治療	361	54%
矯正歯科治療	95	14%
歯科インプラント治療	339	51%
摂食嚥下治療	191	29%
訪問歯科診療	124	19%
入院患者の一般歯科治療	608	91%
入院患者の口腔ケア	655	98%
周術期口腔機能管理	592	88%
入院患者の摂食嚥下治療	350	52%

・ 口腔外科、いわゆる有病者、障がい者治療が多い。

・ 一般歯科治療は半数ほど。

・ 摂食嚥下、訪問歯科は少ない。

・ 入院患者に対応。

入院可能 498施設 74%

病院歯科の全体像 3, 病院歯科の現状

R4 病院歯科の現状: アンケート調査 (日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会)

二次医療機関としての機能

N=670

紹介患者の受け入れ			
• 受けていない	54		
• 受けている	616	(92%)	
口腔外科疾患の診断治療	548	82%	
いわゆる有病者の歯科治療	473	68%	
障がい者(児)の歯科治療	274	41%	
摂食嚥下治療	116	17%	
小児歯科	116	17%	
矯正歯科	68	11%	
訪問歯科診療	61	10%	

- 90%以上で紹介患者を受け入れている。

*「地域歯科診療支援病院」の届け出あり: 358施設 (53.4%)

- 口腔外科疾患、いわゆる有病者の受け入れが主。

- 障がい者の受け入れ少ない？

- 歯科治療、訪問診療の受け入れは少ない。

* いわゆる有病者の歯科治療

鎮静法併用下での処置を行っている	284 (42.4%)
全身麻酔下での治療を行っている	332 (49.6%)
入院下での治療を行っている	405 (60.7%)

* 障がい者(児)の歯科治療

鎮静法併用下での処置を行っている	190 (28.3%)
全身麻酔下での治療を行っている	256 (38.2%)
入院下での治療を行っている	273 (40.7%)

病院歯科の全体像 3, 病院歯科の現状

スタッフ数

R4 病院歯科の現状: アンケート調査 (日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会)

N=670

	中央値	25%Tile	75%Tile	0人	1人	2～3人	4～5人	6人以上
常勤歯科医師数	2	1	4	44	200	256	84	86
非常勤歯科医師数	1	0	3	169	週に≤1人 171	週に≤2人 121	週に≤3人 66	週に3人< 143
常勤歯科衛生士数	3	2	4	47	78	285	155	105
常勤歯科技工士	あり: 134施設, なし: 526施設(78.5%)							
常勤看護師	あり: 193施設, なし: 477施設(71.2%)							

参考 (R4医療施設調査) 1病院あたりの歯科医歯数: 1.8人 (～6.4人)
 歯科系の診療科を標榜する病院 (1,815病院)
 $11,684人 / 1,815施設 = 6.4人$
 But 医育機関を除くと $3,263人 / 1,815施設 = 1.8人$

- ・ 歯科医師数は、30%がいわゆる1人医長、40%ほどが2～3人。4人以上の施設が25%程ある。
- ・ 歯科医師が常勤していない施設が7%程ある。
- ・ 75%の施設で、非常勤歯科医師が勤務している。
- ・ 歯科衛生士は2～4人ほど勤務している。
- ・ 歯科衛生士が常勤していない施設が7%ある。

* 医育機関との連携ありと回答
556施設 (83%)

病院歯科の全体像 3, 病院歯科の現状

R4 病院歯科の現状: アンケート調査 (日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会)

患者数等

N=670

	中央値	25%Tile	75%Tile	
外来ユニット数	4	3	5	2台以下 166施設(25%) 6台以上 156施設(23%)
外来患者数(総数)	35	20	60	60人超 137施設(20%)
歯科医師一人あたりの外来患者数	16	10.9	22.5	

- 外来のユニット数は、3～5台
- 歯科医師一人あたりの外来患者数は16人ほど。+ 入院患者、口腔ケア(DH主体)があるだろう。
- **ハイボリュームセンター**(ユニット6台以上、外来患者60人超)は**20%**ほどある。

病院歯科の全体像 3, 病院歯科の現状

病院歯科の現状 (病院歯科の現状: アンケート調査から推測すると――)

- 病院に歯科がある率は 20%(1,800施設)ほど
- 歯科医師が常勤していない施設が7%程ある。
- 20%程がハイボリュームセンター(ユニット6台以上、外来患者60人超)。
- 歯科医師数は、30%がいわゆる1人医長、40%ほどが2～3人。
- 歯科医師一人あたりの外来患者数は16人 +入院患者、口腔ケアがあるだろう。
- 75%の施設で、非常勤歯科医師が勤務している(80%が医育機関と連携あり)。
- 歯科衛生士は2～4人ほど勤務している。
- 診療内容は、口腔外科、いわゆる有病者、障がい者治療が多い。
一般歯科治療は半数ほど。
入院患者に歯科医療、口腔管理を提供している。
- 紹介患者の受け入れは90%の施設で行っている。
- 内容は、口腔外科、いわゆる有病者の受け入れが主。歯科治療、訪問診療の受け入れは少ない。
- 入院下での歯科治療は60%ぐらいで行っている(いわゆる有病者、障がい者)。
- 摂食嚥下、訪問歯科の提供は少ない。

病院歯科の全体像 4, 求められる機能分化

歯科医療提供体制の整備に向けた病院歯科の機能分化

		高次口 腔外科 医療	一般口 腔外科 医療	高次 歯科 医療	有病者・障 がい者・訪 問患者受け 入れ	在宅 への 訪問	摂食・ 嚥下 医療	医科入 院患者 の口腔 管理	過疎地 への対 応(医師 派遣)	どの位必 要か？
口腔外科型	・ 特定機能病院 ・ 地域中核病院 ・ 医学部附属病 院	◎	○	×	×	×	×	△	×	各県に数 施設
地域支援型	・ 一般病院歯科	△	◎	×	◎	△	△	○	△	各医療圏 に1つ以上
リハビリ型	・ 回復期病棟、 慢性期病棟 ・ 介護施設	×	×	×	○	△	△	○	×	各医療圏 に1つ以上
口腔管理型	・ 特定機能病院 に併設された 歯科	×	×	×	×	×	×	○	×	各専門施 設に
歯科病院型	・ 歯学部附属病 院	○	○	◎	○	○	◎	△	○	各県に数 施設

↑ 多機能歯科診療所: **高次歯科医療***(歯科治療の二次医療機関)の提供

* 専門家(歯科専門医)による歯科医療の提供 ex. 顕微鏡下での治療、合わない入れ歯 など。

多機能歯科診療所 と 病院歯科
診療所

病院(ソフト=多職種、ハード=入院、医療機器・施設)

病院歯科の全体像 4, 求められる機能分化

歯科医療提供体制の整備に向けた病院歯科の機能分化

		高次口 腔外科 医療	一般口 腔外科 医療	高次 歯科 医療	有病者・障 がい者・訪 問患者受け 入れ	在宅 への 訪問	摂食・ 嚥下 医療	医科入 院患者 の口腔 管理	過疎地 への対 応(医師 派遣)	どの位必 要か？	現状 および課題
口腔外科型	・ 特定機能病院 ・ 地域中核病院 ・ 医学部附属病院	◎	○	×	×	×	×	△	×	各県に数施設	明確化が必要
地域支援型	・ 一般病院歯科	△	○	×	◎	△ (マンパ ワー不足)	△ (人材不 足)	○	△ (マンパ ワー不足)	各医療圏 に1つ以上	数が少ない、マン パワー足りない。
リハビリ型	・ 回復期病棟、 慢性期病棟 ・ 介護施設	×	×	×	○	△ (マンパ ワー不足)	△ (主に院 内)	○	×	各医療圏 に1つ以上	数が少ない、マン パワー足りない。 医科の連携 弱
口腔管理型	・ 特定機能病院 に併設された 歯科	×	×	×	×	×	×	○	×	各専門施 設に	他の機能の併設 が可能か？
歯科病院型	・ 歯学部附属病 院	○	○	◎	○	○	◎	△	○	各県に数 施設	少ない。地域差 (無い県がある) 医科の連携 弱？

多機能歯科診療所
(歯科専門医)？

・ 高次歯科医療を提供
する施設が少ない。

・ 訪問診療への
派遣が課題。

・ 摂食嚥下医療を提供
する施設が少ない。

・ 過疎地への
協力が課題。

病院歯科の全体像 4, 求められる機能分化

歯科医療提供体制の整備に向けた病院歯科の課題

高齢化社会

- 地域支援型／リハビリ型の病院歯科の増加、充実が必要。
→ 後方支援、口腔機能回復など
- 摂食嚥下医療を提供する施設（多職種連携、後方支援）が少ない。（スクリーニング等は歯科医院で可能、専門医療は？）

過疎化

- 訪問診療、過疎地への協力・派遣が課題。
（入院下での歯科治療は提供している。）

医療の高度化

- 高次歯科医療を提供する施設（歯科病院型、多機能歯科診療所？）が少ない。地域差。



なぜ病院歯科が少ないか？

- ✓ 医科（特に病院長）、歯科、国民の理解が不足している。
- ✓ 病院としての採算性（口腔外科はなんとか、地域支援、リハビリ型は厳しい現実）。
- ✓ 病院歯科医へのキャリアパス

<https://swallowing.link/>

医療機関一覧

飲食店一覧

訪問インプラント一覧

研究レポート

リンク集

嚥下困難者向けリンク集

新着情報

お問い合わせ

次の時代へつながる医療、介護へ



研究レポート

一覧で見る

医療機関
登録・更新フォーム

飲食店
登録・更新フォーム

2020/11/13

オーラルフレイル疫学調査へのご協力をお願い

2020/08/06

新潟摂食嚥下ネットワーク懇談会による「新潟嚥下えんげ手帳」

<https://taberu-tanoshimi.net/>

食べる楽しみを
ささえる会について

長野県内における取り組み

県民公開講座

過去のセミナー報告

リンク

お知らせ

お問い合わせ

地図

航空写真



嚥下診療対応病院一覧

キーボードショートカット

地図データ ©2025 Google

利用規約

地図の誤りを報告する

頂いたご質問について

- 摂食嚥下医療を提供できる病院歯科がどの程度あるのか、データをお持ちでしたら教えてほしい。 ➡ アンケートでは17% (スライド10,17)
- 特に障害者歯科においては抜歯等の口腔外科小手術が中心となり一般歯科治療のようなコスパやタイパの良くない治療がないがしろにされる可能性が危惧されますが、この点を改善するためのお考えがあれば教えてください。 ➡ 歯科治療は提供されている。 Overall outcome (最終目標)
- 一般病院の歯科部門と、医学部又は歯学部の附属病院の歯科・口腔外科部門で違いがあるかについて言及いただきたい。 ➡ (スライド14)
- 「高次歯科医療」という記載があるが、どのような歯科医療が含まれるかを教えて欲しい。 ➡ (スライド14)
- 先生もご指摘のように、採算性を考えると、現状では病院歯科はどうしても口腔外科を中心にせざるを得ないと思いますが、今後の地域の歯科医療提供体制の充実を考えたとき、どのようなブレークスルーの可能性があるのか、お考えがあれば教えてください。 ➡ 地域医療支援病院(医科)の要件 ➡ 病院歯科の意識改革・役割分担 (not only 口腔外科)
- 訪問診療や過疎地への協力・派遣についてのご提言がありますが、地域における診療拠点の整備の必要性についてお考えがあれば教えてください。 ➡ 1県1医育機関 (医学部のある歯科口腔科＝医療との連携)
- 一病院歯科あたり、平均1.8人の歯科医師、歯科衛生士2～4人勤務が現状と言うことですが、機能的に維持するためには最低どのくらいが必要でしょうか(2次医療圏？での) ➡ 歯科医師3人以上

病院歯科の全体像 4, 求められる機能分化

病院の機能分化

